



にいがた トップインタビュー

第 4 回

最先端技術を常に求めて新潟県の中核企業を目指す

ユニオンツール株式会社

代表取締役会長 CEO 片山 貴雄氏

あらゆるものがインターネットに繋がるIoTなどを核とする「第4次産業革命」。その流れの中で、新潟県に製造基盤をもち、世界的競争に果敢に挑む企業を第2回よりシリーズで紹介しています。今号は、東京で誕生し、縁あって新潟県に工場を構え大企業に成長し、長岡市民からも親しまれているユニオンツール株式会社の片山貴雄会長にお話を伺いました。

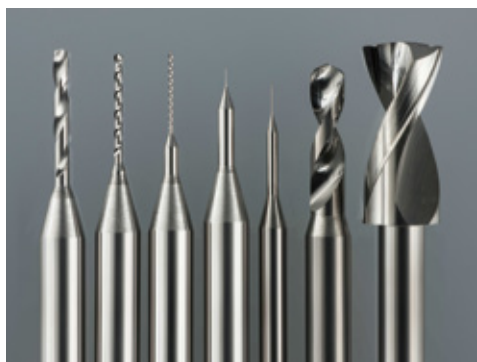


長岡市妙見に工場を取得し 飛躍的な成長を遂げる

―医療用の歯を削るドリル（デンタルバー）の製造から始まったそうですが、現在はどのような製品を作られていますか。

片山 主力の製品は、長岡の工場で作っているプリント基板用のドリル（PCBドリル）です。プリント基板は電子機械の中に必ず入っているものです。その基板に穴をあけるドリルや電子回路の作成に使うドリルを作っています（写真①）。見附の工場では、もう少し大きなもので、自動車や携帯電話の金型の加工に使う超硬エンドミルを作っています（写真②）。創業当初から、一番優れた製品

を作って社会に貢献することが社是でしたので、技術的に優れたものを常に追求してまいりました。私の父は、第二次世界大戦中、海軍の技術士官などの経歴から、船の測距儀の設計開発を行っていました。その技術を活かして、父が昭和30年に大田区で事業を起したのが始まりです。大きな転機は、昭和51年に父の友人で会社社長だった方から、経営が悪化した会社を引き取ったことでした。当時50人前後の従業員だった当社が、長岡市妙見に工場を持ったことがきっかけで、数年後には従業員数が300人を超える会社になりました。その後、長岡市の南陽へ工場を作り、会社は飛躍的に大きくなっていきました。



写真①/PCBドリル



写真②/超硬エンドミル

片山 長岡には鋳物屋さんから最先端の技術加工まで様々な会社があり、機械工業を発展させてきた力があります。これは我々にとって素晴らしい環境です。

当社は、国内外でトップシェアを誇るPCBドリルなど、製品の生産設備の開発を自社で行っています。生産ラインのほぼ100%を自社で作っています。自社製だから、設備投資金額を安価に抑え、需要の変動にスピーディーに対応できます。これが他社と大きく異なる点で、競争優位に立っています。また、製品の中には髪の毛よりも細いドリルがあります。そうした製品を作るために必要な感性が、長岡人の気質や雪国の人の辛抱強さと繊細さにぴったりあっていたのだと思います。

また、スピーディーな変化に対応するためには、大変な努力が必要です。出来るか出来ないかは別として最善を尽くす。それが新潟の人だと思っています。社員が真面目に一丸となって取り組んできたからこそ、ここまで発展できたのだと思います。



デジタル測定器。
PCBドリルを検査する必要性から誕生した製品。ユニオンツールのドリルの許容公差はわずか数ミクロンであり、その高品質を実現するために自社開発し、製品化もされている。

―社是の実現のためには、どんな努力を？

片山 最先端の技術を常に追求していくためには、人材の育成が重要です。社内の技術者は大卒者が多いのですが、その中でも優秀な人を長岡技術科学大学と新潟大学の社会人ドクターコースへ派遣しています。また、技術者の採用の7割は、長岡技術科学大学と新潟大学の卒業生です。

―新潟県としても喜ばしいことで、優秀な人材の県外流出を防ぐことができます。

片山 人材教育では、語学力の向上のために、海外の大学へ語学研修の派遣もしています。30代のほとんどの中堅社員に海外勤務経験があります。

現在は、海外の工場が台湾と中国にあり、ヨーロッパは営業の拠点になっています。最新の技術を開発するためには、国内だけでなく世界のニーズを知らなくてはなりません。海外の拠点は、情報収集の重要な場にもなっています。

県内に工場を新設して トヨタの街づくりを目指す

―長期的な目標と会社の将来像をお聞かせください。

片山 製造業で生きていくためには、常に付加価値のある生産と他社に負けない技術をもつことに尽きますので、それを追求することが長期的目標です。そのための人材教育であり、長期的な目標の実現が競争力になります。今、長岡と見附に工場がありますが、将来は新潟県内に何か所か、工場を作れるようにがんばりたいです。

生産設備はすべて自社製 社員は真面目で一丸となる

―冬に南陽の工場敷地内で輝くイルミネーションはとても綺麗で、長岡では知らない人がいないくらいです。これまでに発展された要因は何でしょうか。



―それは新潟県にとっても嬉しいことです。

片山 愛知県のトヨタ自動車株式会社の関連会社が、県内で集中して発展したように、新潟県と長岡市を盛り上げていきたいです。

―実現すると学生たちや若い人たちにとって良い刺激になりますね。ところで、今、業界全体や御社に課題はありますか。

片山 円高が続き、日本の製造業が中国など東南アジアにシフトした時代がありました。今、電子業界は生産が追いつかないくらい

景気が良くなっています。業界全体では、生産力の向上が課題だと思いますが、我々は円高の時代に、工場を減らすとか、人員整理を全くしませんでしたので、現在は、最大限の生産が出来ている状態です。

その生産体制を支えてくださっている長岡の方たちは最高の人材ですから大切にしていきたいですし、地域に育んでいただいたという感謝の気持ちから、恩返しをしたいと常に思っています。そのためにも良い業績をあげて地域社会に利益を還元していきたいです。

地元に着用して株主さんを大切にしていて岡三にいがた証券さんと一緒に我々も協力しながら、県内の株主づくりに力を入れて、個人投資家の方を大事にしていきたいです。



写真③／生体センサは、肌の上から直接心臓の電気信号を拾うことで、心拍周期をとらえ、可視化が難しかった人間の心や体の姿勢をモニタリング・記録することが可能になった。現場で働く作業員の熱中症予防にも使われ、ドライバーの眠気を検知する製品の販売も始まっている。



片山 貴雄 氏 プロフィール

海が大好きで、自ら船を操縦し、40代からカジキ釣りに夢中になる。200キロの大物を釣り上げたこともあるという。仕事のことを忘れて自然と対峙し、カジキと1時間以上も格闘する会長は、真っ黒に日焼けして笑顔がとても印象的な方である。

企業紹介

ユニオンツール株式会社 (東京証券取引所市場第一部 銘柄コード6278)

現在、ユニオンツールで量産可能なドリルの直径は、人間の髪の毛より細いφ0.05mmで、φ0.01mmへの挑戦も始まっている。PCBドリルの小径化以外にも、工具の長寿化のための特殊コーティングの開発など、総合的で多岐にわたる技術開発を行っている。社是の「優れた製品を供給して、社会に貢献する」の実現に向けて社員が一丸となって取り組み、最新技術を生み出すことで、人々の安全な生活・環境に貢献している。電子機械、自動車、携帯電話、航空機部品など幅広い分野で必要とされる製品を供給。主力製品にはPCBドリル、超硬エンドミル、転造ダイス、デジタル測定器、直線運動ローラー軸受がある。新しい分野では、生体センサ関連製品も期待されている。



本社ビル(写真左)と見附第2工場(写真下)



所在地	本社／〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-1 長岡工場／〒940-1104 新潟県長岡市摂田屋町外川2706-6 見附工場／〒954-0076 新潟県見附市新幸町3-1
代表者	代表取締役会長 CEO 片山 貴雄
設立	1960(昭和35)年〈創業1955年〉
資本金	29億9850万円
売上高	連結／23,188百万円 単体／16,404百万円 (2017年12月期)
経常利益	連結／3,718百万円 単体／4,608百万円 (2017年12月期)
社員数	連結／1,450名 単体／791名 (2017年12月末現在)
事業内容	PCBドリル、直線運動ローラー軸受、超硬エンドミル、測定機器等 金属加工機械の製造と販売
海外拠点	米国(カリフォルニア)・台湾・スイス・上海・香港・シンガポール・東莞・外高橋(上海)・タイ

保育園の新設で 地域の活性化に貢献

―長岡まつりへの参加、芸術活動、奨学金の給付など様々な社会貢献に力を入れていらっしゃいますね。

片山 いつも仕事で物理や数学ばかりしていますから、音楽を楽しむゆとりも大切にしています。長岡市内で、毎年「ユニオンツールクラシックプログラム」を開催しています。活動を支援しているピアニストの仲道郁代さんは、公演前日に必ず長岡市内の小中学校をまわってください、子どもたちがプロの演奏を聞く貴重な機会になっています。

また「ユニオンツール育英奨学会」を設立し、理工系の学生への奨学金給付や大学の研究費用として、これまで総額6億円の支援を行ってきました。

昨年は、当社の敷地内に最高の設備を整えて保育園を作りました。当社の社員だけでなく、地域の方もお子さんを預けられるようにしています。



2017年に長岡工場の敷地内に地域開放型事業所内保育所「ゆにおんの杜 南陽保育園」を開園。

―素晴らしいCSR活動ですが、第4次産業革命で御社の立ち位置は？

片山 第4次産業革命は、第3次産業革命のデジタル化の延長としてとらえていますので、我々の製品の用途は膨れ上がっていく一方だと思います。今、当社が忙しい理由の1つは、自動車の自動運転のための安全装置の開発に関わっているからです。安全装置には、すべて電子基板が使われるので、当社の製品の需要が高まっているのです。これからは、自動車業界だけを見ても、コンピューター化が急速に進み、ますます電子基板